

東京



「其の日」暮らし

山手線のことその一

ずっと昔、東京に遊びに行った友人に「東京ってどんなところ？」と聞いたことがあります。自分が東京に住むことになるなんて、ちっとも思っていなかった頃の事です。その人の回答で印象に残ったのは「山手線という（大阪の）環状線の倍ほどの長い環状線がある」。

その山手線の一つ一つの駅は大阪駅周辺のように開けている。ということでした。「へえー山手線の全ての駅が大阪駅周辺のような賑わいなんや。首都だけあってすごい都会なんや」。常日頃、大阪が一番、と思っていた割に真剣に感心したので覚えています。

転居する事になり・・・東京に降り立ちました。エスカレータの並ぶ側が左右逆ということに違和感を感じることもなく、いざ山手線へ。そこで「東京やあー」と実感したので、それは車両の長さ。電車の長いこといったら!!何両編成かまでは数えていないけど、とにかく長いのです。もちろん全ての駅が車両の長さに対応できるホームであるということになります。「うーん。さすが東京」と感心してしまいました。この分だけの「各駅の賑わい」も疑いようも無く、展開するはずでした。

我が家の最寄り駅は、山手線の西口暮里。駅に着いた直後は早く新居に行きたくて、地図で周囲を調べることもなく、のんびり周りを見ることもなく、ただひたすら、我が家を目指して猛進。ひとまず落ち着いて駅地図を見に行った時・・・「駅前なのに何も無い」事に気が付きました。小さい飲食店と銀行、薬局がちょこちょこあるだけなのです。「山手線沿線の駅は大阪駅並み」との事前情報とは違う。「でも鶯鴨は大阪駅ほどではないけれどなかなか拓けていたし、西口暮里だけかも」と思っていたのですが、日暮里や田端などを探検する内に、「聞いた話と全然ちがうやん」と特に不便もないのに、なぜかガツカリしたのです。

以前、代々木駅で降りたときのことです。この駅も「大阪駅ほどの賑やかさ」は全然ありませんでしたが、このときはショックを受けることもなく用事を済ませ、

遠くに見える大型書店の文字を目指して歩いてゆくと、いつの間にか新宿に出ていました。

新宿ではホームへ繋がる階段を下りたらすぐに電車に乗れると思ったら大間違い。百メートル位（体感距離）は歩かないと乗れないのです。

疲れていたもので、なおさらこの長さには閉口してしまっただけです・・・東京・・・一筋縄ではいきませぬ。

PUKI PUKI・N



東京・山手線

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞